

## 生活クラブ神奈川・JA 上伊那 田んぼの生きもの調査



日時：2007年6月21日（土）

調査地：長野県伊那市東春近車屋集落周辺

主催：生活クラブ神奈川

参加団体：生活クラブ神奈川、JA 上伊那

参加人数：生活クラブ神奈川 35名、生活クラブ長野 15名、

JA 上伊那職員 8名、JA 上伊那生産者 34名 計 92名

**生協組合員の応援で広がる減農薬田んぼ。  
コオイムシが環境の豊かさ証明。**

生活クラブ神奈川と産直交流を行う JA 上伊那は、長野県伊那盆地の田園地帯に位置します。田んぼの生きものを生産者と生協組合員が同じ目線で学ぶことで、生産者の環境への配慮や、食の安全、地域の再生の大切さを実感しようと、毎年、生きもの調査を開催しています。

JA 上伊那では減農薬米の栽培を進めています。事前に購入を予約する制度など、生協組合員の応援で、この「上伊那アルプス米」の栽培面積は毎年増え続けています。生活クラブ神奈川の一政玲子さんは、「生産者が心をこめて環境を守る農業を続けて、生協組合員も応えてきた。生きもの調査をすることで、より交流を深めたい」と開催のあいさつ。環境に配慮した田んぼがあることで、どのような生きものが見つかるでしょうか。

今回は生協組合員が中心になって金魚網を使った田んぼのなかの生きもの調査（ラインセンサス）を行い、生産者が中心となって土のなかの生きもの調査（中級編）を行いました。生物多様性農業支援センターより遠藤敦式と林賢一がインストラクターを務めました。

ラインセンサスでは、コオイムシが多数見つかりました。生息するために多くの餌生物を必要とするコオイムシがいることで、豊かな生態系を証明していました。

「原油が高騰し、リン酸肥料も世界的に手に入りにくくなった今。化学物質を減らし、代わりに有機物で農業をすすめたいが、畜産農家の経営も厳しい時代で、たい肥も手に入りにくくなってきた。農業も酪農も地域連携のなかで育っています。組織の力を合わせて難局を乗り切りたい」と JA 上伊那の白鳥健一さんは話していました。



コオイムシ

### 見つかった生きもの：

(ラインセンサス) コオイムシ、ヒメアメンボ、ミズアブ幼虫、ハシリグモ

(水路) コオイムシ、ヒメアメンボ、ショウリョウバッタ、ハシリグモ類のぬけがら

(土のなかの生きもの調査 (10a あたり、匹))

イトミミズ 300 万、ユスリカ 16.7 万、ショウリョウバッタ 8.3 万、ミズアブ (幼虫) 8.3 万、トビムシ 8.3 万

### 調査結果から：

今回の調査では、田面、水路ともにコオイムシが多数見つかりました。コオイムシは農薬や化学肥料に弱く、水中で小魚や昆虫を捕える肉食のため、生息するためには豊かな水辺の環境を必要とします。コオイムシがいることは、地域の農家と消費者が協力して豊かな生態系を守っている証明になります。

(生物多様性農業支援センター事務局 原覚俊)



記念撮影。毎年多くの参加者が訪れる



土のなかの生きものを観察。  
伊那の土は石灰分で白いのが特徴だ



JAのみなさんが作ったかぼちゃ君が  
生協のみなさんを歓迎していた